



運動推進 NEWS

まちづくり60年 そして未来へ

令和2年3月号 第205号

(令和2年3月31日)

公益社団法人 東京のあすを創る協会

中央区八重洲2-11-7 東栄八重洲ビル6階

Tel 03-3272-0213 Fax 03-3272-1257

Eメール tou-asu@netjoy.ne.jp

TOKYO・今

◆新型コロナウイルスの感染拡大～オリンピック・パラリンピックが延期に



新装なった国立競技場～保育園児が散歩していました

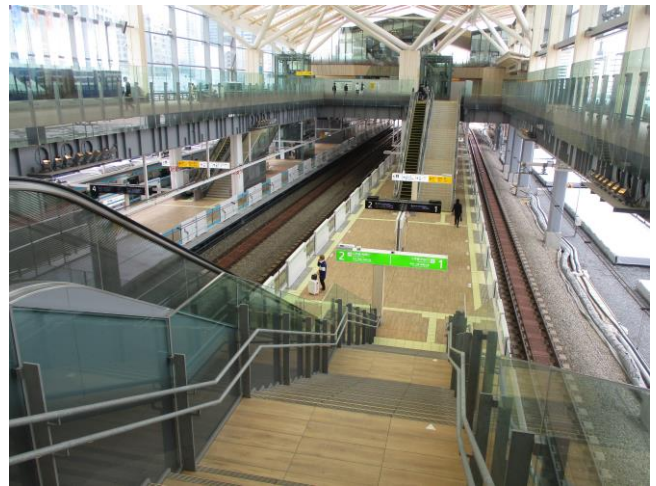
中国湖北省武漢で爆発的感染を起こした新型コロナウイルスは、日本を含む全世界で感染が拡大している。その影響により、オリンピック・パラリンピックが来年に延期されるなど社会全体に混乱が生じています。東創協でも、3月に予定していた運動推進大会・功労者表彰式、理事会、総会を中止とせざるを得ませんでした。今世紀にとどまらず、人類史上においても未曾有の感染症被害の拡大が収まるのを祈るばかりです。

この影響により、地域の活動、イベントも多くが中止となっています。そのため残念ながら、「運動推進ニュース」へ掲載する記事もないことから、今号については、<TOKYO・今>として最近の東京都内の話題をいくつかお届けいたします。ご了承ください。

◆山手線に新駅・リニューアル駅登場

東京オリンピック・パラリンピック開催にあわせて山手線に新駅<高輪ゲートウェイ>が3月14日、暫定開業しました。なお本開業は、駅前の高層ビル群とともに2024年を予定しています。3月末の日中、駅に降り立ってみました。山手線、京浜東北線の2面4線のホームを天井が高い大きなガラス張りの駅舎が包むような感じで、広々とした開放感が感じられる駅舎です。お掃除ロボット、無人コンビニが話題になっていますが、行った当日は、ロボットではなく人が清掃しており、無人コンビニには案内のために係員が2人もいました。有楽町の都庁跡地に建てられた東京国際フォーラムもガラス張りの、エアコンが効きづらい構造だなどと思いましたが、この駅では、光を透過させつつ熱は遮断するという膜構造が採用しているとのこと。その他の部分でも新駅にふさわしい近未来的な設備が整った駅となっています。一度、降車して見学する価値ある駅です。

高輪ゲートウェイ駅が開業した一週間後の3月21日、原宿駅の新駅舎が共用開始されました。これまで使われ親しまれてきた駅舎は1924(大正13)年に竣工した木造建築でした。新駅舎は尖塔こそなくなりますが、旧駅舎の露出した骨組みのイメージを残したデザインが採用されています。この駅舎も見る価値ある駅です。



高輪ゲートウェイ駅 構内の様子



原宿駅 新駅舎



原宿駅 旧駅舎



今年もきれいに満開となった桜咲く新宿御苑



選手村(右側)と高層ビル遠望



勝どき地区のTHE TOKYO TOWERS

東京のあすを創る運動は、昭和32年に発足した東京都新生活運動協議会を母体として、昭和36年に社団法人東京都新生活運動協会、平成11年に社団法人東京のあすを創る協会、さらには平成24年に公益法人化して今に至っています。その間、昭和、平成、令和の三代にわたるわけですが、東京も大きく変化、少し大きさに言えば「変貌」しています。何が変わり、何が変わっていないのか、また、今後、どう変わっていくのか。まずは、東京の現在をきちんと把握することが必要です。知っているようで知らない、東京の「変貌ぶり」を見ていきたいと思えます。

新型コロナウイルス対策として不要不急の外出自粛を求められています。現在は閉園となっている新宿御苑の桜は満開となっていました。ここ新宿御苑では首相主催の桜を見る会が開かれ、その運営について政治問題化していますが、今年も見事な花を咲かせていました。背景に高層ビルが見えますが、東京の中でも変わらない風景の一つとして、大事にしていきたいと思えます。

次は、晴海の選手村です。オリンピック・パラリンピック終了後に分譲を予定している選手村ですが、延期となって入居時期が今のところ1年遅れることとなりました。この選手村の建物群は、13階建て程の中層階となっていますが、周囲の湾岸地区に続々と建築されている超高層マンション(タワマン)群と比較すると、低層の建物に見えてしまいます。この選手村がある晴海地区の対岸に都営大江戸線の勝どき駅がありますが、駅周辺にはタワーマンションが林立してきています。

近年、タワーマンションの建設ラッシュが起きており、特に湾岸地区では都心と近接していることもあり、既に多くのタワーマンションが建設され、現に建設中のものさらには計画されているものも含めると相当数のにぼり、今後その景観は大きく変貌していくことになりそうです。なお、建築基準法では高さ31メートル超、60メートル超の建築物に対して段階的により強固な構造強度を持つように規定されており、60メートルを超える建築物には、最も厳しい基準が適用されているとのこと。

左下の写真の手前2棟の超高層マンションは「THE TOKYO TOWERS」(中央区勝どき)です。再開発事業によって2008(平成20)年に完成した地上58階建(高さ193.5m)のマンションです。その奥に見えるのは「勝どき ザ・タワー」で、1棟のタワーマンションでは日本最大級の戸数、人口数を誇る、やはり再開発事業で2016(平成28)年に完成した地上53階建て(高さ178.78m)マンションです。そして、手前にあるマンションは14階建てぐらいですが、比較するといかに高層であるかがわかります。

今後、若い世代を中心に職住接近のニーズが高まり、利便性の高いタワーマンション人気が持続すると思われれます。これらタワーマンション群は、戦後の高度成長時代にベッドタウンなど郊外へと広がった人口が、振り子のように都心に戻る現象の一つの象徴とも思えます。一度、圧倒されるようなこれらの景観を見ることをお勧めします。

▽ひとこと

新型コロナウイルスの感染により多くの国が緊急事態を告げている中、東京も危険水域に入っています。今後の事態の推移がどう展開するのか、誰にも見通せないことが、一層人々に不安を与えています。こんな時には、流言飛語が飛び交いパニックとなり更なる不安が募ってしまう。冷静になることはなかなか難しい。一つ歴史に学ぶならば、ペスト菌、スペイン風邪など過去の感染症流行に比べれば、病原体に関する情報が得られ、医療技術も飛躍的に進歩していることに思い致すことが必要かもしれない。それにしても気になるのは、新型コロナウイルス感染拡大に対抗することを戦争となぞらえているリーダーがいること。言うまでもないことですが、ウイルスには人間を害する意思はなく、人間同士の愚かたで無益な戦いとは別次元の問題です。そして、ウイルスに「勝つ」というのもあり得ないことです。地球に生存する動植物、すべからずの生命体は、共存、共生しています。その関係性は複雑に錯綜していますが、上手く棲み分けして生きていかなければならないのです。今回の感染爆発も人間がスイッチを入れた結果かもしれません。天に向かいて唾すなかれ。(竜)